

## 平成16年度における事業の概況

**金融経済環境** 昨年の日本経済は、世界的な景気回復のなか穏やかな回復傾向にありましたが、台風・地震など自然災害の影響や原油の高騰などを背景として一部に景気の減速感が出てくるなど、経済の先行きにまだまだ不透明感が残る1年でありました。

管内の状況も、公共工事は前年を大幅に下回り民間の設備投資は抑制的であるほか、個人消費も弱めの動きが続いており、景気の回復を実感するにいたりませんでした。

このような中で、当金庫は「しんきんチャレンジ21」3カ年計画の中間年度として、又、リレーションシップバンクの機能強化に関するアクションプログラムの最終年度として、基本目標である「地域社会の再生と活性化」実現にむけて、一貫してこの地域の繁栄を目指し、中小企業の支援育成、地域住民の生活向上に努力してまいりました。



**業績** 今期は厳しい経済環境のなか懸命に努力されている企業の方々に応援するために、中小企業支援特別融資として、低金利で無担保・第三者保証無しの「釧路しんきんパートナー」を発売し、中小企業向け支援を積極的に取り組みました。又、中小企業診断士の増員を図り、各種相談や地域の人達の生活向上を支援するなど、地域の力強い応援団として重要な役割を果たしていると自負いたしております。

その結果として、預金につきましては今期も信用のバロメーターとも言える個人預金が順調に増加したことから、期中平残で2,919百万円、1.9%増加し、158,299百万円(期末残高157,076百万円、2.1%増加)となりました。

貸出金は企業の需資低迷など厳しいなか、個人住宅ローンなどの推進により、期中平残で1,075百万円、1.1%増加し、94,905百万円(期末残高96,253百万円、2.2%減少)となりました。預金に対する貸出金の比率は60.0%と全道でもトップクラスの高い比率で、地域でお預けいただいた資金を融資として地域に還元いたしております。

損益につきましては、徹底した内部経費の節減、効率化の推進を行う一方、積極的に不良債権処理756百万円を実施した結果、業務純益820百万円、当期純利益は206百万円を計上することができ、自己資本比率も10.60%と前年比0.25ポイントアップさせることが出来ました。

## 最近5年間の主要な経営指標の推移

	単 位	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
経 常 収 益	千円	4,164,968	3,741,013	3,789,865	3,549,189	3,784,412
経 常 利 益	千円	742,123	▲1,271,737	253,025	319,702	292,342
当 期 純 利 益	千円	262,364	▲1,932,210	279,536	230,540	206,451
出 資 総 額	千円	568,918	568,918	568,918	706,179	706,179
出 資 総 口 数	口	1,137,837	1,137,837	1,137,837	1,412,359	1,412,359
純 資 産 額	百万円	7,982	6,207	6,402	6,860	7,090
総 資 産 額	百万円	155,968	158,844	158,744	163,363	166,425
預 金 積 金 残 高	百万円	143,696	149,253	149,660	153,912	157,076
貸 出 金 残 高	百万円	88,294	94,225	96,693	98,443	96,253
有 価 証 券 残 高	百万円	26,595	24,941	33,805	39,533	46,393
単 体 自 己 資 本 比 率	%	11.08	9.21	9.85	10.35	10.60
出 資 1 口 当 た り 配 当 金	円	20	20	20	20	20
職 員 数	人	186	181	178	175	163

## 事業の展望及び当金庫が対処すべき課題

平成17年度の地域経済は、引き続き厳しい景況が続くことが懸念されます。そうしたなかで、金融改革プログラムにおいて、地域密着型金融の一層の推進を求められており、中小企業金融の円滑化、経営力の強化、地域の利用者の利便性向上にむけての取り組みが一層重要となっております。

当金庫は本年、創業80周年を迎える記念の年であります。改めて創業の原点に立ち返り、経営理念である「この地域を愛し、豊かな未来を創造します」のもと、使命、役割を全役職員がしっかりと認識し、地域社会作りに積極的に関わり同時に経営基盤の強化に努めながら地域No.1を目指し、皆様から一層の信頼を勝ち取る経営を展開してまいります。